

JALは、今年度3月決算で史上最高の営業利益2049億円を上げました。安全運航を支え、その利益を生み出している現場は今、どんな問題をかかえているのか生活・勤務の実態、安全・サービスの問題など現役の方々に「JAL退職者懇談会」の世話人がインタビューし、お話をお聞きしていきます。

(客室乗務員Aさんにお聞きしました)

—人手不足で世界一のサービスは無理です—

世話人：この一、二年で勤務状況はどのように変化しましたか？

Aさん：昨年12月以降、毎月80時間以上の乗務をしています。先月はついに風邪を引いて三日間休みましたが、それでも84時間飛びました。昔では考えられなかった90時間オーバーは当たり前になっています。

バンクーバー便は一泊折り返しで飛んで帰ってきますが、デリーからのつなぎ便の時はスペシャルミールが80食もあることがあります。機内サービスは編成数が足りないので食事サービスに時間がかかってお客様にも申し訳ないと思います。機材は767型機でバンクがありませんのでジャンプシートやギャレー内で交代でレストをとります。

帰りは9時間以上かかりますから4席の座席が確保されますが、カーテンで囲っても休める環境ではありません。ステイ先では全く時間がなく、昔のようにコミュニケーションをとったりリラックスする時間も十分ありません。

超人員不足のため、有給休暇は申請しても却下されてほとんどとれません。

新機材787型機が導入されましたが、サービスに見合った編成数やギャレー仕様になっておらず、「世界一のサービスをめざせ」と言うかけ声に応えられず、現場は苦しんでいます。

—賃金切り下げは深刻です—

世話人：一ヶ月間の仕事は、昔と様変わりしているようですね。世界一のサービスを支えないといけな勤務状況はずいぶん過酷になっているようですが、その働きに見合うだけの賃金はどうなっていますか？

Aさん：賃金は、ほぼ四割カットです。しんどさが増しているのにとっても納得出来ません。生活が自立できなくて実家に帰ったりしている人もいます。

機内では人手が足りなくても機内セールス販売では売り上げを上げろと毎便目標の達成を迫られ、ひとり一人が毎月の売り上げ通帳をつくらされています。あれをしろこれをしろと必死です。

ですから、賃金明細表を手にしたときはじっと見て言葉になりません。

ちょうど二年前の賃金明細表がでてきて見比べたら月の乗務時間が同じ85時間でした。

手取りで45万円が31万円に減っています。賃金明細表の項目欄が二年前にあった手当がなくなり空白欄が白々と目立ちます、もちろん世帯手当などもなくなっています。

一番影響が大きいのが乗務手当の切り下げです。若い方では手取り25万円くらいではないでしょうか？安全やサービスを必死に守っている仕事の内容と見合いませんから、やめていく人が増えています。

—精神力で安全は守れません—

世話人：新聞報道ではJALの安全トラブル多発のことが報じられていましたが、どんな問題が起きているんですか？

Aさん：客室乗務員は航空法で定められた客室安全や保安任務という専門職としての仕事を行っています。安全を守るには、必要な訓練、労働条件、チームワーク、モチベーションが必要です。

現実には、お客様の搭乗時、機内客室安全の担当が出発ロビーに出てゲート業務をさせられたり、人手不足でJALフィロソフィーの「有意注意」と言われても精神力だけでは安全は守れません。

食事サービスや機内販売のカートが転倒したり、客室に飛び出したりすることが起きています。一生懸命やっても、誰にでも起こりえる状況です。編成数や超過密労働など根本的なところにメスを入れない限り続くでしょう。

—ベテランの整理解雇の一方で710名の新規採用は許せません—

世話人：JALは新人客室乗務員の採用をホームページで発表していますが、ベテランの客室乗務員を余剰人員として整理解雇したばかりですが？

Aさん：新卒、既卒など合計で710名の新規採用をする予定です。仕事でも会社施策へもはっきりものを言ってきたベテランが大量に整理解雇されたことは仕事の水準にも大きく影響が出ています、戻して欲しいです。

現場では賃金の切り下げ、きつい仕事で健康や将来に展望が持たなくて新人、中堅層まで退職を考える人が増えています。

仕事のやり甲斐やものが言える環境をみんな求めています。客室乗務員としていい仕事ができるように頑張っています。これまでのJALを築いてきた退職された先輩のみなさまからもアドバイスや応援をいただきたいです。

世話人：ありがとうございます。現場の方の頑張りや現状をお知らせし、少しでも力になりたいと思います。現状に負けずに、いい仕事ができるような職場環境をつくってください。